


各 位

会 社 名 **株式会社 日阪製作所** 
 代表者名 代表取締役社長 竹下 好和
 社長執行役員
 コード番号 6247
 上場取引所 東証プライム
 問合せ先 執行役員 波多野 浩史
 経営企画本部本部長
 電話番号 06-6363-0007

通期個別業績の前事業年度実績値と当事業年度実績値との差異に関するお知らせ

当社は個別業績予想を開示しておりませんが、個別決算における当事業年度の実績値が、前事業年度の実績値から一定以上変動いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 2022年3月期通期個別業績と前事業年度実績値との差異（2021年4月1日～2022年3月31日）

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益(円)
2021年3月期 実績値(A)	24,685	1,110	1,401	935	33.30
2022年3月期 実績値(B)	25,214	1,496	1,921	1,885	67.04
増減額(B-A)	528	385	520	949	
増減率(%)	2.1	34.7	37.2	101.5	

2. 差異の理由

新型コロナウイルスワクチンの普及に伴い、米国や中国を中心に経済活動の正常化が進み、世界経済は緩やかな回復の動きが見られました。国内経済においても、個人消費は力強さを欠いたものの、製造業の生産活動は回復基調となりました。足元ではウクライナ情勢の悪化により更なる資源価格の高騰、部材需給の逼迫が懸念されるなど、経済の先行きは依然として不透明な状況が続いております。

このような経済環境の中、更なるコーポレート・ガバナンスの強化並びに新たな社会課題の解決に向け、新商品開発及び市場開拓に積極的に取り組み、更なる企業価値の拡大に努めて参りました。

以上のことから、売上高については微増に留まった一方、利益面ではプロセスエンジニアリング事業において不採算案件に引当金を計上したものの熱交換器事業におけるセールスマックスの改善があったことや鴻池事業所の大規模修繕費用の減少などにより、営業利益及び経常利益は大幅な増益となりました。また、政策保有株式の縮減による特別利益を計上したことにより、当期純利益も大幅な増益となりました。

以 上